

Ⅰ 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容	評価	分析及び改善策
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	1 豊かな心の育成 ① いじめ、不登校への適切な対応 ② あいさつと言葉遣い	2	○ いじめ事案については、その都度いじめ対策委員会を開き迅速かつ丁寧に対応したことで、ほとんどの事案が解消もしくは解消に向かっている。また、重大事案については、町教委に適宜報告を行ったり外部機関に指示を仰いだりしながら真摯に対応してきた。いじめの芽を摘むために、対人関係のトラブル等については、初期段階での報告や相談、チームで対応することの大切さについて適宜指導し、実践している。 不登校や登校渋りの事案については、学校だけでは対応が難しい事案があったため、SC(スクールカウンセラー)、こども政策課等との情報共有やケース会議を継続してきた。改善に繋がっている事例も出てきている。 ○ あいさつの向上については今年度も重点努力項目に位置付け、職員による率先垂範を心掛けた指導を行った。児童・保護者アンケートともに昨年度を上回った。言葉遣いに関しても、同様に昨年度を上回る評価となったが、児童・教職員ともに4点満点中2.8と低い数値となっており、更なる改善が必要である。今後は支持的風土の醸成をもとにした学級経営を更に浸透させていきたい。
	2 基礎学力の充実 ① 確かな学力の育成 ② 教職員研修の充実	3	○ 長崎県学力調査、全国学力・学習状況調査ともに国語科、算数科それぞれの調査で、全国平均を上回った。ただ、国語科の「書く」領域、算数科の「図形」領域において課題があり、2学期以降、授業改善を通して重点的に指導を行っている。ながよ検定の結果については、4月実施の合格状況が漢字95.2%、計算94.8%に対して、9月実施の合格状況がそれぞれ96.9%、97.0%という結果となり、各学年において指導の成果が表れたと捉えている。 ○ 特別活動の「学級活動」について、校内研究を通して指導力の向上を目指してきた。学年部を中心に、授業づくりについての協議や授業公開を通して、授業力を磨き合っている。また、初任者研修や若手研修を授業者だけではなく、若手を中心とした職員の成長の機会ととらえ、積極的な授業公開を実践している。さらに、指導力のある中堅・ベテラン職員を各学年に配置し同学年での人材育成も図られている。
	3 健康安全教育の推進 ① 食育の推進 ② 安全教育の推進	3	○ 栄養教諭が中心となって、給食時のマナーや地産地消、食糧自給率等についての指導、食育だよりの発行をもとに、食への感謝の意識を高めてきた。今後も子供たちへの指導や保護者への啓発を続けていく。 ○ 正しく安全な廊下歩行を努力事項として位置付け、継続的に指導を行ってきた。児童による自己評価が、昨年度より上回った一方で、教職員による評価は下回っており意識の乖離が見られる。3学期は、特に昼休みの際の廊下歩行に重点をおいて全職員で指導事項を共有し指導に当たっている。 登下校の際、通学路の歩行のあり方について、地域の方からの情報をいただくことがあったので、指導を徹底したい。
	4 特別支援教育の充実 ① 一人一人のニーズに応じた支援 ② 教育相談の充実	4	○ 特別支援学級や通級指導教室の児童について指導や支援の体制が確立され、充実した指導ができています。また、通常学級の中で個別的な支援を要する児童に対して、指導教諭による巡回相談や関係機関とのケース会議を通して、支援策を関係職員で共有し組織的に対応してきた。今後も一人一人の児童や保護者のニーズに応えるよう努めていく。 ○ 困り感のある児童やその対応に悩みや不安を感じる保護者に対して、積極的に個別面談を行うことで、家庭との情報共有を大切にしてきた。担任だけでなく管理職も入って応じ、SC(スクールカウンセラー)やこどもと親の相談員との連携に繋ぐ事例が増加傾向にある。保護者の不安や悩みに寄り添いながら、適切な対応を行うことができた。
	5 国際化への対応 ① 外国語活動の充実	3	○ 外国語専科の配置により、コミュニケーションや発音等においてより専門的な指導を行ってきた。また、それぞれの学級で、ALT(外国語指導助手)を効果的に活用した外国語科や外国語活動の授業を展開している。
	6 教育環境の整備 ① 整った教育環境 ② 保護者・地域との連携	3	○ 授業開始前の2分前着席や学習用具の準備を重点的に指導してきた。落ち着いた環境の中で教育活動が展開されている。次年度以降も全校で共通理解し、徹底を図りたい。 ○ コロナ禍を経て、授業参観・学級PTA、保護者面談を定期的実施し保護者との情報共有に努めてきた。また、毎日学校ホームページの更新を行い、学校の様子発信・公開に努めてきた。次年度以降、更なる内容の充実を図っていく。
	7 教職員の資質向上 ① 指導力の向上 ② 児童に寄り添う教師	3	○ 授業づくりについて、児童及び保護者アンケートともに、よい評価をいただいた。今年度は、身に付けさせたい力をもとにしためあての設定に加え、対話的な活動を重視した学びの充実を図ってきた。また、途上の域ではあるが、今後も授業改善に努め指導力の向上を図っていく。 ○ 児童アンケートでは高水準での評価であった一方で、保護者アンケートでは、昨年度より0.1P下回る評価となった。児童に対しては、小さな努力やよい行いについて認めたり褒めたりする声掛け、困り感や悩みに対して最後までしっかり話を聞く対応に向け、更に意識を高めることを指導していく。 保護者に対しては、把握した情報について迅速に共有を行っているが、児童の学校生活に際し、より安心感を抱いていただけるよう、誠意ある対応で改善を図っていく。

## 2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

### （1）成果

- ① いじめ事案については、迅速かつ丁寧に対応してきた。重大事案については、町教委への報告、外部機関の指示をもとに真摯に対応してきた。初期段階での報告や相談、チームで対応することを重視し実践することができている。今後も、生活アンケートによる児童の実態把握や教師の積極的な児童理解への取組を継続し、早期の発見や対応に努めていく。
- ② 特別支援教育について、一人一人のニーズに応じた支援や教育相談の充実が図られた。困り感のある児童やその対応に悩みや不安を感じる保護者に対して、積極的に個別面談を行い家庭との情報共有を大切にしてきた。SC（スクールカウンセラー）やこども政策課、福祉や医療機関との連携に繋ぎ、適切な対応に努めることができた。
- ③ 全国学力・学習状況調査の全国平均、長崎県学力調査の県平均を上回った。

### （2）課題等

- ① 不登校や登校渋りの児童を今以上に増やさないために、家庭との更なる連携強化や魅力ある学校づくりに努める。
- ② 「声出しあいさつ」についての意識は高まったが、実際の行動の変容については学年差や個人差があり、あいさつの声が響き合う学校には至っていない。
- ③ 各学力調査において全国や県の平均を上回ることができ、一定の評価をいただいたが、長与町の平均に届かなかった教科があった。また、12月に実施した標準学力調査においても、ほぼ全国の平均正答率を上回ったが、学年内でも正答率に差が見られた。さらに、4つの学年で長与町の平均に届かない結果であった。国語科の「書くこと」や算数科の「図形」の領域において課題がある。

## 3 学校関係者評価

（成果として認めていただいたこと）

- 児童や家庭に寄り添う姿勢や対応  
（児童一人一人の不安や悩みに耳を傾け、保護者に対しても把握した情報などを共有している。）

（課題として御指摘いただいたこと）

- 特定の児童だけでなく、すべての児童が実践できるあいさつについて。  
（学校や地域・保護者が一体となった指導や声掛け等の改善を図ってほしい。）
- 不登校、登校しぶりの児童の増加について。  
（全国的課題ではあるが、安心して登校できる環境作り、迅速な対応を今後も続けてほしい。）
- 学力の定着と向上、安心安全な教育環境の構築  
（職員一同が一体となり、適切な指導や対応の継続・改善を続けていってほしい。）

## 4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- あいさつの指導は、年間を通じて継続しており、来年度も学校経営方針の重点事項の1つとして続けることとしている。職員による率先垂範を心掛けた指導を実践していく。
- 言葉遣いの改善に向けて、「居心地のよい学校・学級」を目指し、子供たちどうしが認め合い、支え合う学級風土づくりを行っていく。
- あいさつ、言葉遣いともに、今後も全職員が当事者意識をもって継続的な指導を実践し、態度の変容を目指していく。また、学校の諸問題の解決として、児童会での取組も促していく。
- 学力向上に向けて、個別最適な学び、協働的な学びに児童が向かい、確かな学力を身に付けさせ、学級間の学力差をなくしていくために、日々授業改善に努めていく。

## 5 その他

（特になければ記入不要）

### 【留意点】

評価は、自己評価をもとに学校関係者評価にも十分配慮し、総合的に判断し記入する。  
評価は4段階とし、以下による。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 4 十分達成できている       | 3 概ね達成できている    |
| 2 どちらかという達成できていない | 1 ほとんど達成できていない |